

チェンバロを長く使うために

チェンバロを長く良い状態で使っていただくためのヒント:

- 直射日光の当たるところには置かないようにしましょう。
- 天候の状態に注意し、急激な変化を避けましょう。温度15°C~25°C、湿度50%~70%が望ましいです。なお、博物館では湿度50%、温度20°に保つように設定されているようです。
- 音の出る仕組みと構造を理解しておきましょう。
- 常に気持ちよく弾けるように、調律しておきましょう(4'があればそれも)。調律は面倒な作業ではありません、むしろ楽しみとなるでしょう。チューナーで確認するのも一方法です。尚、特に理由の無い限り平均律はお勧めしません。
- 蓋は、使わないときには閉めておきましょう。
- 楽器を弾くときは手をきれいに (子供や訪問者にも伝えましょう)。
- 弦や、他の金属部品は素手で触らないようにしましょう(錆び等のため)。
- 気がつかないうちに鉛筆の跡が着いていることがあります。気をつけましょう。譜面台に楽譜を載せたまま消しゴムを使うと、カスが楽器の中に落ちます。膝の上などで消し、消しカスが入らないように注意して下さい。
- 楽器の埃は定期的に掃除しましょう。特に工場地帯や埃の多い場所、ペットを飼っておられる方、寝室等は注意が必要です。
- メンテナンス工具や部品を身近に置いておきましょう。何を用意しておけばよいかについては、楽器製作者や技術者にお尋ね下さい。良いアドバイスが受けられるでしょう。
- 切れた弦や折れた爪の交換は、とりあえず御自分で出来るようにしておきましょう。そして、必要に応じて専門家に依頼してください。
- 専門家に依頼する場合、壊れた部品(例えば、外れた鍵盤カバー、ジャック、チューニングピン、切れた弦)が必要ですので、保管しておいてください。
- 楽器を運かすときは、必ず保護カバーを掛けましょう。
- 車で楽器を運んでいる時の駐車は日の当たる場所に置いておかないように。車内の温度は僅かの時間で50°を超え、湿度は10%以下になります。
- 最後に、適切な保険に入っておくことをお勧めします(特に演奏会等の時には)。

日本語訳 引野春夫, 井岡妙

©2010 CBH